



東京多摩プロバスニュース

第 104 号



■事務局: 〒206-0002 東京都多摩市一ノ宮 1-17-18 登坂征一郎方 ■電話: 042-375-5878

■URL: <http://www.tokyo-tama-probusclub.com> ■編集・発行: 広報委員会 2023. 1. 11.

共に学びながら、高齢化社会に貢献しよう

第 221 回 定例会

日 時 : 令和 4 年 11 月 2 日(水)午後 1 時 30 分より

場 所 : 関・一つむぎ館 第 2 会議室

出席者 : 14 名(会員数: 21 名)

第 222 回 定例会

日 時 : 令和 4 年 12 月 7 日(水)午後 1 時 30 分より

場 所 : 関戸公民館 8 階 第 3 学習室

出席者 : 14 名(会員数: 21 名)

理 念

1. 豊かな人生経験を生かし地域社会に奉仕する
2. 活力ある高齢社会を創造する
3. 会員同士の交流と意欲の向上をはかる
4. 非政治的、非宗教的、非営利的であることとする



ごあいさつ



今年は 十二干支「ウサギ年」です

高村弘毅会長

「ウサギ」年は幼い時から人々に親しまれてきました。「ウサギ・兎」について 86 年ぶりに「キツネ」に騙されたつもりで深追いしてみながら「止め足」でまず、「兎」の特徴に触れておくことにしておく。「兎」と言えば両耳が大きく立っていること、飼い兎<イエ兎>の目が赤いこと、後ろ足が太くて長いこと、傾斜の登るスピードが一段と速く鋭い、斜面の降りるスピード鈍く転げるみたいに遅い、などの特徴を持っている。また、我が国では童話や物語に良く登場されることが在り、可愛さがある動物である。「お月様のモチ搗き兎」「因幡の白兎・素兎」「兎と亀の駆けっこ」「兎跳び」などがその例で、子供に人気がある。また、「兎の糞は水分を含まない破断・連続した糞ではない」特異な糞である。



ウサギの歴史は 1500 年代にオランダ人が食糧や兎毛の商業的価値のため日本に持ち込まれました。繁殖力が大でネ



多摩センター駅からパルテノン多摩方向へ架かる多摩センター大橋、夜はライトアップされ、恒例の「多摩センターイルミネーション」で賑わう

ズミ並みである。「うさぎ」の当時の運命は誠に悲しいものでした。哀しいことに貴族やマタギの相言葉で直ぐに「うさぎ」狩りなどが出てくる。しかしその後、人間を「癒し」てくれる「うさぎ」の時代もありました。「うさぎ おいし かの山」などは子守歌・童話のよい歌として心に残っている方も少なくなかろう。

新型コロナ問題で長い間、暗い年が続きましたので、今年は冬の「白いウサギ」年に相応しく、純白な色の「うさぎ」年の高齢化多幸社会で無病息災の多摩市の社会であって欲しいものと期待しています。

◆◆◆ 幹事・委員会報告 ◆◆◆

1. 幹事報告

小島明幹事

1) 11月24日(木)、全日本プロバス協議会八王子大会が京王プラザホテル八王子で開催されました。当クラブでは10名が参加、翌25日の高尾山登山に登坂征一郎会員が参加した。

詳細7頁参照

2) 12月7日(水)上半期最後の定例会後、京王デパート8階「つきじ植むら」にて忘年・懇親会を開催した。16



全日本プロバス協議会第10回総会に
参加した当クラブの10名の皆さん
さん・瀬尾さんも参加され大賑やかでした。

3) 12月21日(水)最終理事会後、京王クラブにて理事会忘年会を行い、下半期に向け意見を出し合い無事19期上半期を終えたことを喜びました。

2 委員会報告

2.1. 総務委員会

藤寄喬子委員長

1) 第221回定例会；11月2日(水)関・一つむぎ館3階第2会議室

- ・出席者：14名（会員数：21名）
- ・誕生祝い11月：該当会員なし
- ・卓話：「私の履歴書」酒井善夫会員 詳細3頁参照

2) 第222回定例会；12月7日(水)関戸公民館8階第3学習室

- ・出席者：14名（会員数：21名）
- ・誕生祝い12月：渡辺ますみ会員
- ・卓話：「健康と仕事」杉原正強会員 詳細4頁参照
- ・オープントーク：20周年記念事業について

2.2. 研修・親睦委員会

片倉満委員長

去る12月7日(水)定例会終了後、午後4時から忘年・懇親会を開催しました。会場は京王デパート、聖蹟桜ヶ丘「つきじ植むら」。休会員および会友にも参加を呼びかけ、当日は16名にて楽しく会食・懇談し令和4年の締めくくりを行いました。

2.3. 地域奉仕委員会

秋山正仁委員長

多摩市社会福祉協議会のボランティアセンター(OPAT)では常時、使用した古い切手、まだ使用できる切手やハガキを市民より寄付を募っていることを知り、多摩プロバスクラブとして寄付に参加している。9月10月11月の3ヶ月で4名の会員より御支援いただきました。今後も続けてまいりますのでご協力の程お願いします。

お願い！！毎月の定例会に皆様より古い切手等をボランティアセンターに届けたいと思いますのでご協力の程よろしく願いいたします。

2.4. 広報委員会

伊藤健一委員長

1) プロバスニュース第104号を1月11日(水)に発行・配布。104号は、忘年・懇親会や八王子2022などの行事もあり、追悼文を含め8ページ構成となりました。

2) 会員各位からの寄稿は随時募集しています。

(私と多摩、私の故郷、趣味、旅行記、私の一品、対外活動等テーマは自由です)

3) ホームページの更新公開は上記ニュース発行後に予定。

2.5. 会員委員会

小林務委員長

9月の定例会にて前任者の休会により急遽会員委員会の委員長に任じられました。よろしくお願いします。

昨今、地域の自治会・同窓会・各種サークル団体等の会員減少傾向をよく耳にします。要因は高齢化、数年来のコロナ禍、会社員の定年延長等諸々考えられます。

我が多摩プロバスクラブも組織、会則等の見直しも考えながら、会員全員が会員増強と楽しむ為のプロバスクラブを目指して、ご支援・ご協力をお願いします。

◆◆◆ 懇親会 ◆◆◆

忘年・懇親会の開催

片倉満研修・親睦委員長

12月7日(水)午後4時からの忘年・懇親会の実施には若干の紆余曲折がありました。コロナ感染が第8波に突入したことから実施の有無を問われました。全員がワクチン接種は4～5回目済であること、賑やかとなる要素を除き、感染防止の工夫をして開催実施する結論となりました。

参加者は16名。会場は京王デパート8階・聖蹟桜ヶ丘店「つきじ植むら」。

当日の運営は総務委員会と合同にて進行し、高村弘毅会長挨拶、増山敏夫副会長乾杯の音頭で始まり、会食・懇談の途中、参加者が持参されたお土産交換が行われ、品物の中身での話題に興味津々となりました。実はお土産は金額300円相当の基準があるため、各位は持参する品物選定に苦労された様子でした。

参加者最高齢で96歳となられる阪東照子会友の元気で歯切れのよい藤原歌劇団の逸話、瀬尾日出男会友のプロバスに寄せる深い友情話、全員の一言スピーチなど、瞬間に時間が過ぎました。

中締めは小島幹事となり、互いの健康を飲み無事で年を越せる事の関東一本締めでやり、午後6時過ぎに散会となりました。



高村弘毅会長挨拶 増山敏夫副会長乾杯



忘年・懇親会への参加者の皆さん

私の履歴書

本日は、私の履歴書として、どこにでもありがちな、平凡なサラリーマン人生の一端を、それとなく聞いていただければ幸いです。よろしくお願いします。

私は、1954年9月19日生まれ、現在68歳。出生地は東京都千代田区神田多町2丁目3番地。多町2丁目は、変わった町名で、1丁目も3丁目もなく2丁目だけである。町名変更のときになぜが残ったようです。

父は終戦後、やくざのもと、神田の闇市で稼ぎ、神田の駅前に土地を借りてお菓子屋を始めました。しかし、結核を患い多摩村に家を建て家族と共に引っ越し、療養生活へ。

私は、1960年、多摩村立多摩小学校第2分校に入学。木造平屋1棟建ての校舎。裸電球、冬はコークスのダルマストープの教室でした。

1967年多摩町立多摩中学校に入学。町中から集まった200名の生徒。3年の3学期の通信簿は、技術以外は全部5でした。卒業式に代表で答辞を読みました。

都立の国立高校に合格したが、学園紛争時代、新設の私立創価高校に入学。当時は定期考課の順位が校内に張り出され、私は中ぐらいの順位でした。私は3期生、男子校、草創期の気概に溢れ、個性的な朋友が全国から集いました。3期生からは東大14名、慶応の医学部など医系も何人か、地方の国立大学、6大学など含め1/3はそちらに進学し、2/3は受験し創価大学へ。私は創価大学の経済学部合格。3期生です。入学時には創価大学には4年生はいませんでした。

大学では学生新聞のクラブに。当時ありがちなマスコミ志望の一人でした。1973年からオイルショックで、1977年は厳しい就職戦線、採用0の企業も続出。日経新聞と博報堂の筆記試験を受けましたが、不合格。大学の就職課から「指定校制の企業の欠員が出たので筆記試験だけ受けてくれ」と打診。留年しようかと思っていた矢先でしたが、練習で日本交通公社の筆記試験を受けたら、内定。創価大学から初の採用というので、後輩のために道を開こうとJTBに決めました。

入社同期は37名で、東大・京大など旧帝国大学系、早稲田・明治など有名私大のメンバー、この年、慶応大学はいませんでした。

さて、JTBに入社し、大阪に配属。大阪は江戸っ子の私には、カルチャーショックの連続でした。米国・欧州・アジア諸都市など、添乗で見聞。旅行業は代理販売、前払いの現金商売。支払先への猶予期間に手元の現金資金運用、海外旅行では精算時の為替差益操作、当時は金融業的な営業外利益も大きい事業会社でした。

入社3年目に、東京本社の出版事業局へ異動。25歳。時刻表、月刊誌「旅」、旅行ガイド、などを発刊する部署。希

酒井善夫会員



望していた出版業界に入りました。そこでは、ガイドブック編集、取次営業など経験しました。

さて、これからいよいよという37歳で出向を命じられました。今ありませんが「JTB フォト」というリースポジの会社、20数人のJTBの子会社へ。事業所は神田。生家から数十メートルのビルでした。約3年間は凄いいわハラ役員の元で、よく言えば、徹底的に鍛えられつつ、でも負けず、ひるまず、若い女子社員たちに支えられ、売上げ目標を数十ヶ月、不敗の目標連続達成、営業拡大を進めました。

JTB フォトで5年少々して、1995年42歳、人事異動。今度は神田から、埼玉県新座市にある、子会社のJTB出版物流センターへ、再度出向。物流流通管理の事務部署へ移りました。全くの素人、経験なし。自分を真白にし、ゼロスタート。気持ちを入れ替え、先入観なく、基本から、現場から学ぶの角度で、赴任し、倉庫業の仕事に取り組みました。

倉庫への物流、保管、入出庫の管理と調整、システムの中でどう動かすか、最適化するか、ロジスティクの諸々の研究と改善改革を進めました。自分の手のうちでプランし、それを実行し、目に見える形で目的を実現するという展開、それができた、面白い職場でした。

楽しい倉庫、ロジスティックの仕事は3年弱で異動となり、後ろ髪をひかれつつ、同じ子会社内の直販部門に変わり、出向して10年目に、再びJTB本社出版事業局へ。

カスタム出版の法人営業。JTBの企画旅行商品の「エース」で毎年のオリジナル企画編集制作の拡大や、NTT ドコモ、高速道路の中日本エクスプレス、恵比寿ビールなどとの業務を展開。年間売り上げで2億から3億の結果を10年間通して残すことができました。目まぐるしい東奔西走の日々でした。北は知床半島から南は西表島まで……。

58歳で役職定年、60歳で本当の定年。以後、給与は以前の4割。2018年64歳で退職。

皆さん！そこで今、40数年のサラリーマン人生を振り返り感じる。それは、いい仲間、いい顧客、いい協力者、いい現場に恵まれたこと、出世には全くもって縁なくも、自分らしく自分を生き切ったこと。有意義で、悔いなく、満足度の高い人生であったことです。

皆さんも良くご存じかと思いますが、死に際の床で高杉晋作「面白き こともなき世を 面白く」野村望東尼がそこに続けて「住みなすものは 心なりけり」と。私の好きな歌です。「面白き こともなき世」で、正直、37歳まで、会社の仕事は面白くありませんでした。しかし、子会社に出向してから、ある意味、大変な状況になってから、いやおうなく仕事と向き合うようになり「仕事を面白く」できるように取り組み始めました。「面白くする」人生の醍醐味はここにある！意欲、情熱、生じる悩み、苦しみ、そこからこそ生まれる智慧、想像力。「今日」より「明日」へ。これからも創造的に生ききっていきたいと思います。

健康と仕事

山梨に生まれ、実家に百年以上前から占師が発見した井戸が有り、両親は九十過迄で一度も病気をした事が無く、私も同じです。

学校は東武鉄道の社長が寄付して頂いた。日本で最初に鉄筋コンクリート3階建てで屋上は100m位有りよく走っていました。

裏山から見る景色が平成百景の13位に入り、そこに富士屋ホテルが有り、富士山が見え、桃源郷、夜景が良く、右側に南アルプスが見え、さらに朝日は山の上に“ほったらかしの湯”が有り、多くの人々が来られております。

学校は山梨学院大学から拓殖大学大学院商学部と経済学部を卒業と同時に渋谷信用金庫に入庫し、その年に税理士に成りました。

金融全体を経験し取引先で“プリクラ”で有名な原野社長に出会いました。原野社長は英語は強いが経理は弱い為教えました。色々アドバイスをして今はこんなに有名に成りました。もう一社はテレビによく出て来ますインテックとの取引です。

良かった事は要所で良い先生にめぐり会えた事です。高校では原先生、大学では福田先生にアドバイスを頂き大変感謝しております。

しかし、残念に思ったことはバブルがはじける事を見透せなかった事です。渦の中にいると仕事が忙しく目先の事を処理するのが多かった為解りませんでした。

水に興味を持ち調べた所、富士山のバナHの水に出会いました。この水は鹿児島大学の網谷教授が研究して「糖尿病の治療」に関する研究として論文を発表しております。山梨に水晶が有り、水晶は粉にしても液状には成りませんが、2000度以上の熱によって液状に成るようです。それが珪素に成ります。人の体は生まれた時に珪素が有る為病気に成りにくいと言われておりますが、年を取ると珪素が少なく成る為色々悪く成ると言われております。今は水の会社が水素事業の特許を取りました。今のガスは爆発しますが、低圧の為爆発しないそうです。東京都がオリンピック村にマンションを建てる時にこの技術を使う事で新聞に載りました。工場見学をされたい方は御案内致します。富士山一目に工場が有り全国から毎日来ております。大月で“ほうとう”を食べ車が迎えに来ます。

囲碁について

囲碁を通してイトーヨーカ堂の創業者と打った事です。伊藤さんの高級車で家族で旅行に行ったり、別荘に行っ

杉原正強会員



たりしていました。40年位前日本橋の三越でプロとの対局の抽選に当たり、井上初枝プロと打ちましたが多くの人が見ている為、手が震えて打っておりました。

その後、将棋に唄が有るのに囲碁に唄が無いのはおかしいと思い作詞をしまして、東芝からレコードを出しましたが、販売活動はしない為売れませんでした。

その後西落合小学校で囲碁を教えておりまして、その中にいつもはガチガチしている生徒がおりました。しかし、囲碁は毎日強く成る感じでした。今ではプロに成る手前の院生に成り、プロに成って呉れば良いと思っております。囲碁をやっている子供は学校の成績が一ランク上がるようです。

卓球について

小さい頃から雨が降ると家の中でチャブ台でピンポンをしておりました。小学校に入学したら立派な卓球台が有りビックリしました。高校に入り県大会で代表に成り埼玉の大宮で関東大会に出場出来ました。代表に決まった時は飛び跳ねて喜びました。

その後練習していたら、日本チャンピオンに成った長谷川選手がおり、こちらからお願いしますとは言えない為練習していましたら、長谷川選手から試合をしましょうと言われ、ビックリしましたが大変良い経験でした。

今は多摩市で毎週教えておりますので二人以上で遊びに来て下さい。八十代の御夫婦が一から始めて毎週来ています。

体操について

30年位前に鈴木都知事さんが普通の人より若く見える為お聞きした所、ある体操の道場に行かれているとの事で私も行くように成りました。今は細川元総理も時々来られております。

富士山のバナHの水は毛細血管までも活発にするそうなので清水を呑みながら体操をしております。

もう一人は免振装置で特許を取り、一部上場の会社を二つ創った寺町氏は証券業界では有名な方で、健康にも気を使う人で道場を紹介した所大変喜んでおりました。

ゴルフについて

二十代で始め、巨人の原監督とグアムでプレーする事が出来まして大変良い思い出に成りました。

もう一つは、JCB クラシック仙台のプロアマに出場することが出来、アマで一番先に打つ事が出来大変光栄でした。日本のトッププロが出場する大会で経験出来たのは良かったです。

まとめと致しましては、このような立派な会に入会出来た事に感謝しております。

今後は秋山先生のような懐刀の深い生き方をしたいと思っております。

高村弘毅著「タクラマカン沙漠縁辺の環境と人」
を俳句する その3 増山敏夫会員

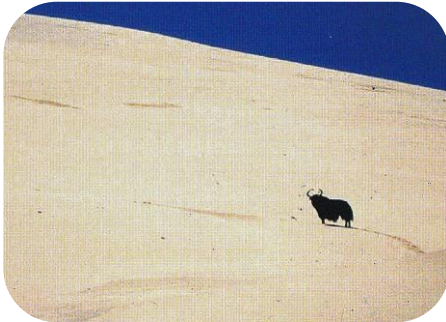


地部の薄氷が朝日に溶けて流れ出し、チマンターク高原の底部砂原に極浅の水流が出現する。夜間には気温の低下とともにこの水が薄氷と化す。

薄氷は極浅の水砂原の朝
極浅の水薄氷へ砂原の夜



高度 4,000m
の砂丘に現れた
体重凡そ 1
トンの野生の
ヤク。夏のヤ
クは獍猛。

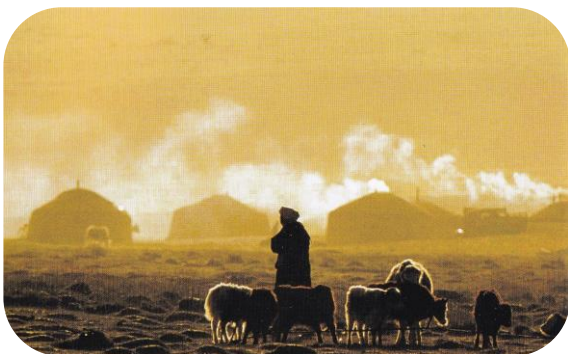


ヤク遙か高地砂丘の夏の雄



胡楊の大木。岡野さんの画集にもこれと似た映像があり、「沙漠の英雄」と記されていた。

炎帝や沙漠の英雄胡楊座す
岡野さんへのオマージュ。沙漠に沈む巨木と重なる。
砂幹を呑みなお巨木冬の月



煙立つパオ秋営の夕餉どき

同行の写真家伴野憲司写真集「シルクロード」よりカシ
ュガルの裏通り。月は私のフィクション。

春の月小さきモスクの坂の路地

自由市場のスイカ市

積み上げて割って切り分け西瓜市

○山河賞に応募する

この俳句旅を一通り楽しんだところで私は、「山河賞」に応募しようと思った。山河賞とは、私達俳句会のメンバーが所属する俳句結社「からまつ」の自由句コンペである。20 句の年もあれば 10 句の年もある。この年は 10 句、各自タイトルをつけて応募する。

はじめこうして作った 40 句ほどの中から、10 句選べば何んとかないと簡単に考えて、3 分の 1 ほどに絞った。しかし今一つピンと来ない。1 句の上手さでは適わない俳句上手が多い中で、結果を出すにはどうすべきか考えた。

そして得た結論は、10 句トータルの力で勝負するという作戦だった。そしてこれまで選んだ句を一度ご破算にして、本書のテーマ「沙漠縁辺の暮しと環境」に立ち返ることにした。本書の映像は頭の中に叩き込まれている。どうすればこのテーマが浮かび上がるか。それが出来れば上手いといはずだと思った。

このテーマを横糸に、相応しい句を縦糸とすれば良いと。そして前半を人の暮らし、後半を環境として改めて作り、夏秋冬春と一巡させる 10 句の構成にした。句の並び、繋がりや離れ、キレにも気を配りました。頭の中にある映像を意図に合うように句にしました。あとは推敲、籠居で時間はたっぷりありました。タイトルはテーマである「沙漠縁辺」としました。

沙漠縁辺

切り分けて滴る果汁西瓜市

家畜市撫でて値踏みの日焼けの手

嫁盗みの若衆のトラック疾駆秋

車座の嫌のバター茶夜長のパオ

パオ出れば宇宙に一人星月夜

虎落笛砂に集落呑まれたる

冬の水白骨の獣動かさる

一株の芽吹き沙漠を動かさず

雪解水沙漠に河の現るる

砂原の夜は薄氷の刻水音止む

お陰様で先日、令和 3 年度「山河賞」を頂戴することが出来ました。魅力が尽きない地球の面白さをこの写真本が教えてくれたのだと思います。

高村会長に感謝申し上げます。有難うございました。

長らく療養・リハビリテーションを続けて来られた中村昭夫会友が、令和4年9月20日にご逝去され、教会にて家族葬をされたとの知らせをお伺いいたしました。享年84歳。

彼は当クラブの草創期から総務、研修・親睦、地域奉仕委員会の各分野をはじめ、第9期会長を務められ、会員の親睦と奉仕活動を骨子に、活動基礎作り・活動の活性化・会員増強にご尽力されました。特筆すべきは、第1期の早々、故池田寛会員の作詞と中村さんが作曲された「多摩プロバスソング」を、2006年10月6日の第4回定例会から歌い継がれてきています。また、一泊研修旅行・施設見学・教育委員会のESDプログラムへの協力など、サークル活動では「歌を楽しむ会」を立上げて歌唱の指導、「グルメ」など幅広く先鞭をつけられてきました。ここに故中村昭夫さんと親交のありました皆さんに、思い出や弔意を綴って戴きました。合掌。 文責：登坂征一郎会員

高村弘毅会長；

中村昭夫会友のご逝去を衷心より悲しく思います。中村さんとは、小生が本会に入会する時から三人の誘いの人の一人でした。三人の方は、故岡野一馬さん、元会員の滝川益男さんに中村さんでした。三人は正装されて来宅しておりましたので、大変恐縮いたしました。中村さんの物静かにお話ししていただき、納得して入会することにしました。中村さんは本クラブの主題歌の作曲や、ひじり館の館長の他、いろいろと市内の要職もお勤めになられ、多忙の日々を送られておりましたが、大動脈瘤の大手術後一時復帰されました。その後、下肢の手術をされてリハビリに努めておられましたが復帰適わず、無念にも永眠されました。誠に残念でなりません。心から哀悼の意を持ってお祈り申し上げます。安らかにお休み下さい。

蓮池守一会友(初代会長)；

哀悼の誠を捧げ ご冥福をお祈りしつつ

突然の訃報に驚愕、感涙致しました。氏には、当クラブ創設の期、総務部長として、本会の目指す基本理念と活動方針の策定等に、豊かな識見と行動力を持って当り、実施・運営にお力も戴き、その後も会の発展・充実にご尽力賜ったこと、感謝致しています。作曲戴いたプロバスソング、今も歌い継がれています。

凍てる夜やプロバスソングロ吟み 秋霜

上田清会員；

中村さん、長年の闘病生活お疲れ様でした。プロバスクラブ発足以来、定例会や理事会、委員会、サークル活動などで尽力され、大所高所からご意見を述べられておられた姿が昨日のように思い出されます。また、立川病院にお見舞いで伺った際にも、色々のご示唆を賜りありがとうございました。謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

大澤亘会友；

中村さんは平成16年の当クラブ創設時以来の会員であり、その卓越した行動力により数々の貢献をされました。その一例として総務委員長当時の平成22年に当クラブ初の「プロバスパンフレット」を作成されました。諸々のクラブ活動の写真とその解説文を上手に組み

合わせたユニークなレイアウトで、その後一部改定を経て現在も当クラブ紹介の基礎資料として広く活用されています。

増山敏夫会員；

学生時代に鍛えたテノールの美声は生涯衰えませんでした。中村さんが会長になられる時、ぜひ副会長を引き受けて欲しいと丁寧なお手紙を頂戴したことがありました。氏の率直な気持ちが綴られ最後に実印が押されていたのが思い出されます。お人柄が偲ばれるものだったと記憶しています。次の10周年の会長という大役が待っていたわけです。皆若かったこともあり、老後を謳歌していました。ナイスガイ中村昭夫さんを偲んで。



10周年記念式典で活動報告をされる中村さん

北村克彦会員；

我がクラブの創立以来、そのクラブの理念(キャリアと特技を生かして次の世代に引き継ごう)を求めてご活躍されて来られた中村さん、私は第6期からそのご指導をうけて参りました。自らもコーラスグループでご活躍されながら、時には、私たちを指導されて歌を楽しみ、会員相互の親睦を図られたことなども思い出されます。中村さんの作曲になる当クラブのプロバスソングを歌いながら、そのお姿を忘れず活動していきたいと思います。

鈴木達夫会友；

中村さんとはご病気で御逝去されました。謹んでお悔やみ申し上げます。貴方は、第1期生で「多摩プロバスソング」を作曲され、サークル活動では「歌を楽しむ会」で歌唱の指導を賜りありがとうございました。私は今も、ひじり館でカラオケの仲間と青春時代の歌謡曲を楽しめることに感謝申し上げます。

◇◇◇ 中村昭夫さんを偲んで(つづき) ◇◇◇

鈴木泰弘会友；

東京多摩プロバスクラブのプロビアンとして生き、理念に忠実に活動され天に召された中村昭夫さんでした。多摩市国際交流センターで活躍され、19年前当クラブの設立に寄与された。以来、全日本PC協議会の役員にも選出されて活躍され、八王子PC、日野PC他のPCとの交流を推進された。学生時代からの合唱の趣味で多摩ダンディーズを結成し地域のボランティア活動を続けて来られた。プロバスクラブの「消えない轍」を残したいとの思いは、道半ばで引退を余儀なくされ誠に無念であったと思います。天国での平安がありますように。[PC；プロバスクラブの略]

瀬尾日出男会友；

当クラブの「歌を楽しむ会」を立ち上げた中村昭夫さんが鬼籍に入られ、悲しみを禁じえず残念でならない。中村さんは歌を愛しバンド仲間を組み、広く地域のイベントで活動していた姿を忘れることはできません。

「歌を楽しむ会」では当初、ウクレレ伴奏で始まり、その後はご自分で選曲、入力された機械を持ち込み、まずは発声練習で始まり、とかく少ない私達に機会と時間を指導された中村さんは自分は明るい曲、グループソングを好んだ。特に交友の深かった小椋佳さんの曲を歌唱指導、元気であれば沢山の楽しい曲を指導されていたことでしょう。今思うに、コロナ騒ぎ以前で本当に良かったと中村さんに感謝しております。



永田宗義会員；

中村さんは当プロバスクラブ創立時のメンバーであり、高いレベルの学識と豊かな感性の持ち主であり、当クラブ活動を日頃から大いにリードしてきた一人でありました。それにより活動が発展して来たと思います。趣味は音楽であり、男声合唱のリーダーとして活躍するなど、また、故池田寛さんの作詞のプロバスソングを作曲するなどされ、当ソングを皆で歌う時は中村さんのことを思い出すなど数々の記憶が蘇って来ます。この度は大変素晴らしかった人材を忍んでご冥福を祈ります。

阪東熙子会員；

車椅子生活になられた時、どんなにか悔しい思いをされたかと、心が痛みます。今は地上での役目を終え、ウクレレ片手に、主のみ許に召されて行かれました。黒がおにあいのダンディーなグループを引きつれ、クラブの折々の会合に出演、又ボランティアとして、永山西友の入口その他のステージに参加活躍されていました。「歌を楽しむ会」には毎回、白雪という甘塩っぱい味のおセンベを買ってきてくださった事、僕大好きだからと言っておられました。今恥かしいのは、私を含め頂戴するばかりだったと思い出しています。2006年発行の古い会員名簿の顔写真を見ながら色々ありがとうと。クリスチャンでいらしたのね。「アーメン」。

藤寄喬子会員；

小椋佳さんの曲「遥かな轍(わだち)」の歌詞に「こうとしか生きようのない人生がある。せめて消えない轍を残そうか」とある。このフレーズにとっても共感すると熱く語ってくださった。優しさの中に在る鋭さを垣間見た気がしました。夫と同年であり、私とは同じ10月生れ、誕生月には腕を組みたい様な気持ち(組んだかも)でカメラに。「歌を楽しむ会」は決して当たり前のことではなかった。本当に楽しい時間と仲間、忘れがたい日々でした。

山田正司会友；

「May I help you ?」これが中村さんの多摩プロバスクラブでの、最初の卓話題名だったと記憶します。お話の内容もこの言葉通りで、誰にでも優しく、頼まれたら決して断らない正に聖人の如き賢者でした。謹んでご冥福を祈ります。

堀内陽二会員；

中村さんの多彩な音楽活動等プロバスにおける活動は多く語られている。私は他の面で思い出等ひとこと。彼は関戸公民館7階の多摩市国際交流センターの理事長を、同じ頃、私は隣の多摩市文化団体連合会の理事長を務めておりました。そのことをお互いに気づいていたらと思えば彼と私のお付き合いも、もっと深められた(?)と残念な思いがあります。改めて彼の良きお人柄を偲び、そのご逝去を悼み、ご冥福を心よりお祈りします。

◇◇◇ 高尾山ツアーに参加して ◇◇◇

「高尾山エクスカーション」に参加して

登坂征一郎会員

全日本プロバス協議会第10回総会「東京八王子2022」の翌日、オプションルツアーとして件名のツアーに参加した。11月25日8時に京王プラザホテル八王子に集合。全国のプロバスクラブ会員が16名、ホス

トクラブの八王子PC会員を含め、約50名が観光バスにて高尾山に向かう。順調に高尾山ケーブルカーで高尾山駅に到着。当日は快晴で展望が開け、横浜のランドマークの彼方に房総半島が青く横たわる。参道の鬱蒼とした杉並木の山気がひんやりと心地よく高尾山薬王院を目指す。

◇◇◇ 高尾山ツアーに参加して(つづき) ◇◇◇

薬王院では大本堂をはじめ、権現堂、奥の院不動堂など普段見られないお堂を案内戴いた。薬王院は、創建は天平 16 年(744 年)とのこと。山号：高尾山、院号：薬王院、寺号：有喜寺。真言宗智山派の三大本山の成田山、川崎大師と並ぶ一つという。一行は大本堂に招かれ護摩壇を前にして着席、やがて法螺貝とともに貫主を先頭に 10 人余の僧侶が入場し護摩壇を囲む。飯縄権現と唱えながら大音声の読経、法螺貝、太鼓の音に護摩木が燃え盛る。貫主は護摩札を火に翳して災厄除、願望成就とお祓いをする。凄まじい光景に圧倒される。無病息災、安寧秩序を祈る。



護摩焚の行われた大本堂



この後、場所を有喜閣に移し、穏やかな表情の佐藤秀仁貫主の生い立ちや薬

有喜閣講堂で貫主の法話を待つ

王院の歴史などの法話を拝聴。高尾山の自然のみならず、人々の高尾山への信奉を集める所以と理解を増した。昼食は客殿で精進料理の天狗膳を味わい、軽く般若湯で参加者も寛いだ雰囲気会話も弾んだ。

高尾山には数回登山をしているが、この「東京八王子 2022」のオプションツアーに参加し、高尾山の信仰の山の一端を体験させて頂いた。これを企画された八王子プロバスクラブの皆さんに敬服と感謝です。

ケーブルカーで晩秋の紅葉を鑑賞しながら楽しく下山、何かふくよかな気分で帰途に着く。



手前左が客殿、右奥が有喜閣



護摩焚の 太鼓法螺貝 冬の雷 爽風
小春日の 坊に憩うや 般若湯
落葉にさえ 宿る仏心 高尾山

◇◇◇ ハッピーバースデー ◇◇◇

12 月に誕生日を迎えられました！



渡辺ますみ会員

夏に膝を痛めました
が、改めて年のせいには
しないと誓った年女
です

◇◇◇ 東京多摩プロバスソング ◇◇◇

作詞 池田 寛
作曲 中村 昭夫

聖の桜仰ぎつつ 多摩の流れに身を清めて
緑の杜に囲まれた 我が故郷の行く末と
社会奉仕に力をそそぐ

集う我等プロバスクラブ

プロバス プロバス 多摩プロバスクラブ

霊峰富士を仰ぎつつ 心の業を磨き合い
豊かな知識身につけて 次の世代の若人の
教え導く糧となる

集う我等プロバスクラブ

プロバス プロバス 多摩プロバスクラブ

◇◇◇ 編集後記 ◇◇◇

2023 年を迎えました。虎から兎に引き継ぎましたが、コロナも引き継いでしまったようですね。

我が東京多摩プロバスクラブは創立 19 年目にあたりますが、会員数は 21 名(休会員含む)とかなり少なくなり、そんな中での活動もかなり寂しくなっています。しかし、そんな状況下でこのプロバスニュースの果たす役割は大きいと自覚しています。会員同士の交流とか、地域社会への奉仕など私たちの理念を実行するには、かなりの制約を受けざるを得ません。それを補っているのがこのプロバスニュースではないでしょうか。

そのプロバスニュースも 2 か月に一回発行を続けて、第 104 号になることは誇ってもよいでしょう。

高村会長が述べられていますが、高齢化多幸社会で無病息災の多摩市の社会で活躍する我がクラブにとって、最近入会された酒井、杉原両会員の卓話からこれからの活躍が期待されます。

大変残念ですが、創立以来当クラブを引っ張って頂いた中村さんを失いましたが、残された私達がこれからのクラブを盛り上げていかねばなりません。

コロナ禍がいつ収まるのか分かりませんが、そんな中で私たちが出来る事を考えつつ、このプロバスニュースも最大限活用しながら、プロビアンらしい活動をしていきましょう。

(広報委員 北村克彦会員記)